

コア技術の分析・強化と事業戦略立案のポイント

～技術資源の峻別、強化、活用による競争力向上と次世代への布石～

- 日 時■ 2015年 12月 16日 (水) 10:00 ~ 17:00
- 会 場■ 企業研究会セミナールーム (東京・麹町) TEL 03-5215-3511
- 講 師■ アーサー・D・リトル (ジャパン) ㈱ シニアアドバイザー 小久保 厚郎 氏

【講師紹介】

東京工業大学 高分子工学科卒業。同大学院 理工学研究科修士課程修了。東芝総合研究所にて様々なプロジェクトに参画。アーサー・D・リトル社入社後は技術戦略策定手法開発担当。イノベーションマネジメント分野でのコンサルティング経験20年以上。著書に「商品開発大全」(日経BP社)「エキサイティングな会社」「イノベーションを生み出す秘訣」(以上ダイヤモンド社)、「研究開発マネジメント」(東洋経済新報社)など多数。

◆ 開催にあたって

国際競争が激化する中、多くの企業ではより競争力を高めるために研究開発の見直しを進めているかと存じます。特に、今後の世の中環境の変化をチャンスに変える、自社ならではの「コア技術」の見出しと育成ニーズが益々高まっており、自社の技術資源を体系的に把握し、経営環境変化に迅速に対応できる仕組みとマネジメントシステムを構築することで、コア技術の強化・活用ひいては、コア技術を社内的に認識することによるオープンイノベーション戦略の検討も可能となります。

そこで、本講座では自社の技術資源を分析しコア技術を明確にするためのポイントと、明確にしたコア技術を強化・活用することにより「中核事業の強化」「強者連合の形成」「新事業創出」等、技術が牽引する事業戦略立案のポイントについて分かり易く解説いたします。

自社ならではの技術資源を明確にし、今後の事業戦略の筋道を見極め、どのような環境変化にあっても即応可能な技術経営体制確立の一助として、是非この機会をご活用いただければ幸いです。

《プログラム詳細は裏面をご覧ください》

●受講料● 1名(税・昼食・資料代含む)

正会員	39,960円	本体価格 37,000円
一般	45,360円	本体価格 42,000円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。
- お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者をご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当：横谷 E-mail: yokoya@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3513 FAX 03-5215-0951

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からもお申込みいただけます。

*FAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

151741-1001(※)		2015.12.16	
申込書 コア技術の分析・強化と事業戦略立案のポイント			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
ご氏名	フリガナ	所属	役職
TEL		FAX	
E-mail			

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

コア技術の分析・強化と事業戦略立案のポイント

～技術資源の峻別、強化、活用による競争力向上と次世代への布石～

● プログラム ●

10:00

1. コア技術が果たす役割の重大性

- 1) 競争を勝ち抜くためには何をすべきか
- 2) 無形資産価値増大の原動力とは
- 3) イノベーション創出競争時代の武器とは何か

2. コア技術を明確にするための自社技術の体系化の方法

- 1) キー技術・差別化技術とコア技術の峻別
- 2) 技術の棚卸からコア技術を設定する際のコツ
- 3) 知恵を生み出せる仕組みづくりにつながるように設定

12:00

(昼食)

13:00

3. コア技術をテコにした強者連合形成

- 1) 産業構造変革の端緒
- 2) シナリオ作成に当たっての留意点
- 3) 大型次世代製品開発のパラダイム転換
- 4) オープンイノベーションの要諦

(休憩)

4. コア技術を活かした次世代への布石

- 1) コア技術保有組織と整合する展開方法
- 2) 非コア技術の取り扱い方
- 3) ビジョンの役割とその重要性

5. コア技術を永続的に武器とするためのマネジメント

- 1) 望ましい組織体制と風土チェックの仕組み
- 2) 人の育成をメインにした人事システムへの転換
- 3) CTOとスタッフが果たす役割

※ 質疑応答につきましては適宜行います。

17:00